

(概要版)

道徳教育を活性化する学年ブロックのマネジメント

—「学年における指導計画」を活かした道徳教育の推進—

長期研修員 武井貞子

道徳教育に求められているもの

新学習指導要領では

・教師が**共通の課題意識**をもって**機能的な協力体制**で道徳教育に取り組む

・児童の実態や指導上の課題を踏まえ、**学年ごとに道徳教育で取り組むべき重点を明確**にする

・児童の実態から**内容項目と指導上の課題をとらえ、児童の実態に見合った指導**をする

教師の願いは



思いやりの心を育てたい！

全児童に自分からあいさつする心をもってほしい！

家族や地域を大切にすることを系統的に育てたい！



道徳教育を活性化するマネジメントが必要！

教師が **協働** して取り組める道徳教育！！

協働のために必要なことは・・・

○課題を共有し、指導の方向性を明確にする

○指導の手立てを出し合い、学び合って、実践に向けた役割をもつ

○話し合いの観点を基に目的にそって指導方法等を考え合う

○指導を重点化し、指導の連携を図る

○実践を振り返り、改善に生かす

実効性のある取組になる！

「学年における指導計画」をつくってみましょう！

道徳教育を推進できる！

研究のねらい

本研究は、道徳教育を学年ブロックで推進するマネジメントにおいて、道徳教育全体計画の別葉として「学年における指導計画」を作成し、話し合いの観点を基に引き出した指導の重点を具体化する手立てを実践することにより、道徳教育の活性化を図ることができることを明らかにします。

「学年における指導計画」

児童の実態	② めざす児童像	ブロックとしての共通理解
①	指導の重点 ③	④
⑤	⑥	⑦ 重点○内容項目「主題名」
重点○「 」	重点○「 」	⑧
⑨		

作成の順番に沿って
計画を立てていくと、重
点を絞った取組になって
いけそうだ！

手立てを出し合う
話合いの観点か
あるといいな！

低・中・高の学年ブロック
で内容項目をとらえると
指導の系統性が
図れそうね！



学年ブロックで取り組む RPDCAのマネジメントの流れ

①各情報から児童の実態をとらえる

- ②課題を解決しためざす児童像を設定する
- ③めざす児童像に迫るための指導の重点を設定する
- ④共通理解した学年ブロックの方針を立てる
- ⑤年間計画の主題名を配列する
(教科等との関連を図り指導時期を入れ替える)
- ⑥指導の重点に対する具体的な手立てをもつ
- ⑦学年として授業づくりをする単元を設定する
- ⑧指導の重点に対する具体的な手立ての指導場面や
方法、連携のとり方を構想する

この計画を基に、道徳教育と授業づくりを進める

⑨実践したことを評価し、改善すべき点を明らかにする

R 情報収集

課題の洗い出しと焦点化

方向性を明確にする

P 計画

「学年における指導計画」
作成

各教育活動の指導の連携を図る

D 実践

学年の道徳教育と授業づくり

参画・協働して実践する

CA 振り返りと改善

学年ブロックの改善策

学校全体へ広げる

学年ブロックのマネジメント

R 情報収集

学年ブロックで課題の分析と焦点化をします

ポイント1

話合いの観点を基に、各情報から課題の原因を分析する

観点

学校評価、児童の道徳性や指導の実態の教師アンケート、日常の観察から課題といえることは何か、その原因は何か。

指導方法や指導の実態からも原因を分析する。

ポイント2

話合いの観点を基に、課題解決の必要性・重要性の高いものに
話題を焦点化する

観点

必要性・重要性の高い課題であり、学年ブロックで協力して育ててい
きたい児童の道徳性は何か。

活性化1

指導の方向性が明確になった

中学年ブロックを例に実
践の流れを紹介します

課題を焦点化してみたら、3年・4年の学年ブ
ロックでは、共に郷土
愛が課題となった。そ
れぞれの学年でもとめ
る姿を明確にし、指導
を生かし合っていくこと
にしよう。



P 計画

指導の重点を具体化します

ポイント1

話合いの観点を基に、学年のめざす児童像、指導の重点を設定する

観点 めざす児童像に迫るための指導の重点は何か。

ポイント2

話合いの観点を基に、各教育活動において、指導の重点に対する手立てを具体化する

観点 具体的な指導の場面や方法、連携の手立ては何か。

立案した計画を学年ブロックで相互に取り入れたり、生かし合ったりする。

「学年における指導計画」の作成

活性化2

各教育活動の指導の連携が図られた

3年生では、家族と郷土のかかわりについて聞き取り調査を行うので、4年生は家庭にアンケートをとることにしよう。これで中学年の傾向がわかるね。そこから指導の手立てを導きだそう。



学年	指導の重点	手立て
3年生	家族の役割、地域の歴史、自然の恵み	聞き取り調査、アンケート
4年生	家族の役割、地域の歴史、自然の恵み	聞き取り調査、アンケート
5年生	家族の役割、地域の歴史、自然の恵み	聞き取り調査、アンケート
6年生	家族の役割、地域の歴史、自然の恵み	聞き取り調査、アンケート

D 実践

学年共通の具体的な手立ての工夫をします

ポイント1

学年の道徳教育において、指導の重点に基づく具体的な手立てを協働して行う

ポイント2

授業づくりにおいて、話合いの観点を基に、具体的な手立てを出し合い、協働して実践する

観点 ねらいに迫ることができる中心場面と、発問の工夫は何か。ねらい、児童の実態、資料に基づいて、自己の生き方を見つめる活動は何か。

授業の工夫や実践後の気づきを書き込み、情報交換する拡大指導案に、授業の改善のポイントを書き入れていき、共有化を図る。

活性化3

参画力と協働性が高まった

3年生「祭りだいこ」では、児童の実態を踏まえ、「妹を祭りに誘う場面」を中心場面ととらえ直し、価値を高めるために、中心発問や児童の反応を考えて授業づくりをした。



妹にも、祭りの楽しさを味わわせたいという思いを児童の言葉で表現できた。

CA 振り返りと改善

学年の成果と課題の振り返りと改善をします

ポイント1

話合いの観点を基に、学年の実践における成果と課題から学年の今後の改善策を立てる

観点 学年の道徳教育や授業実践の成果と課題から、各教育活動において今後生かせることはどんなことか。

拡大指導案に集まった授業のポイントや実践の成果等を整理する。

ポイント2

話合いの観点を基に、引き継いでほしい指導を伝える

観点 学年ブロックや、学校全体に広げるべきものは何か。

活性化4

他のブロックや学校全体に広がった

学年ブロックの取組を他のブロックや教職員に伝える手立てを出し合う。

3年生の総合的な学習の時間で、地域の施設調べを発表しよう。校内にも掲示して、他学年や保護者からも感想やアドバイスをもらうことでつながりをもたせよう。



社会科で学習した「岡上景能」を取り上げ、地域を愛する思いから活動していることや、地域に尽力した先人の思いをゲストティーチャーから聞き、その話を基に地域について考える授業をつくった。



ゲストティーチャーの話からは、地域に対する思いが児童によく伝わった。4年生でもできる身近なことから取り組んでみることの大切さに気付けた。郷土愛を深めるのに効果的な授業展開になった。

6年生では、「岩宿人になるう」(総合)でも、地域のゲストティーチャーを招いて、岩宿という地域に生まれた誇りやよさを聞き、先人の働きを学習していくことにした。「スーパーイレ掃除」(学級活動)では、小学生でも地域のためになることを教えていただき、中学年の郷土愛の指導を引き継いでいくことにした。

「学年における指導計画」を生かして 学年ブロックのマネジメントを行った成果と課題

活性化
できたこと

○共通の課題意識をもって、指導の方向性を明確にできた

学年ブロックで、各情報から課題の原因について分析することにより、児童の道徳性や指導の実態が明らかになった。出された課題について、必要性・重要性の高いものに着目したことにより、課題の焦点化が図られ、学年ブロックの方針として育てていきたい児童の道徳性について共通理解を図ることができた。

○指導を重点化したことで、具体化と連携ができた

「学年における指導計画」を作成することで、各教育活動において、具体的な指導場面を想定した指導の手立てを具体化し、連携を図ることができた。

○学年教師の参画力と協働性を高めることができた

話し合いの観点を基に話し合いを行うことにより、教師一人一人の考えを出し合い、目的に沿った有効な手立て等を引き出すことができた。学年教師の相互理解と学び合いができ、参画力が高まった。この手立てを基に、協力して授業づくりと授業実践したことにより、協働性が高まった。

○改善策から、他の学年ブロックや学校全体に広げることができた

学年ブロックで、今後を生かせる指導や学校全体に広げるべきことを話合ったことにより、学年の取組を他の学年や保護者に伝えたり、校内で共有したい手立てが出された。また、全学年や教職員で共通理解を図ることができた。

〈今後に向けて〉

学年「学年における指導計画」を基にして、学年ブロックの道徳教育に取り組むために、マネジメントサイクルを設定した。(資料編 マネジメントサイクル)「学年における指導計画」については、受け渡しを前後の学年で行い、指導のポイントなどを伝えていくことが大切である。